

No. 19XXXX

JIS マーク等の表示の使用許諾に係る契約書

認証番号：JPOX1900X

認証区分：JIS K 56XX

認証取得者 ○○塗料株式会社(以下、甲という) と一般財団法人 日本塗料検査協会 (以下、乙という) は、乙の認証した甲の鋳工業品、又はその加工技術により加工した鋳工業品に係る JIS マーク等の表示に関する乙の甲に対する使用許諾について、次のとおり契約するものとする(以下、この契約を本認証契約という)。

(用語の定義)

第1条

本認証契約に関する基本的な用語の定義は、次のとおりとする。

(1) 鋳工業品等

甲が製造する鋳工業品、加工技術により加工した鋳工業品又は販売する鋳工業品であって、本認証契約により認証の対象となるものをいう

(2) 工場又は事業場

鋳工業品等を製造又は加工する一つ又は複数の工場若しくは事業場で、当該認証に係る品質管理体制の審査が必要とされる工場又は事業場の総称

(3) 初回製品試験

甲から認証の申請のあった鋳工業品等が、該当する日本産業規格に適合するかどうか審査するために乙が行う試験

(4) 初回工場審査

甲から認証の申請のあった鋳工業品等を製造又は加工する工場又は事業場の品質管理体制が該当する基準に適合しているかどうか確認するために乙が行う審査

(5) ロット

特定の個数又は量の鋳工業品等

(6) 認証書(日本産業規格表示認証書)

鋳工業品又は加工技術が認証されていることを証明する乙が甲に交付する文書

(7) JIS マーク等

JIS マーク等とは、次の1)~4)の表示の総称で、本認証契約において、具体的に定めるもの

- 1) JIS マーク[産業標準化法に基づく鋳工業品及びその加工技術に係る日本産業規格への適合性の認証に関する省令(以下、省令という) 第1条第1項、第2項及び第3項に定める様式の表示]
- 2) 適合する日本産業規格の番号
- 3) 適合する日本産業規格の種類又は等級
- 4) 乙の名称又は略称

(8) 付記事項

(7) の表示に付記する事項で、以下のうち該当する事項

- 1) JIS で定める表示事項
- 2) 甲の氏名若しくは名称又はその略号（略称、記号、認証番号又は登録商標をいう）
- 3) 工場又は事業場の名称又は略号（工場又は事業場が複数の場合はその識別表示）
- 4) ロット認証の場合にあっては、その識別番号又は記号
- 5) その他、乙が必要とする事項

(9) 認証維持審査

乙が行っている甲の認証を維持できるかどうかを判断するための乙の措置であり、初回工場審査に対応する認証維持工場審査、及び初回製品試験に対応する認証維持製品試験で構成される

(10) 国が定める認証の基準

1) 産業標準化法の次の条項に規定するもの

- a) 第 30 条第 1 項、第 2 項及び第 31 条第 1 項（表示）
- b) 第 30 条第 3 項及び第 31 条第 2 項（認証に係る審査の方法）
- c) 第 45 条 第 2 項（認証の業務の方法の基準）

2) 省令の次の条項に規定するもの

- a) 第 1 条（表示）
- b) 第 2 条（品質管理体制の審査の基準）
- c) 第 9 条及び第 10 条（認証に係る審査の実施時期及び頻度）
- d) 第 11 条～第 13 条（認証に係る審査の方法）
- e) 第 14 条（認証に係る公表の基準）
- f) 第 15 条及び第 16 条（違法な表示等に係る措置の基準）
- g) 第 18 条（認証契約の内容に係る基準）
- h) 第 19 条（申請者又は認証取得者に対する通知の基準）
- i) 第 20 条（認証に係る秘密の保持の基準）

3) JIS Q 1001 一般認証指針

(11) 乙の定める認証の基準

乙が (10) に基づいて定めた認証の業務の方法等の基準

(権利及び義務)

第 2 条

- 1 本認証契約及び乙の発行した認証書は、乙が産業標準化法の該当する規定に基づき認証を行っている 鋳工業品又はその加工技術が、該当する日本産業規格に適合し、当該鋳工業品等を製造又は加工する 甲の工場又は事業場の品質管理体制が、JIS Q 1001 の附属書 B に定める品質管理体制の審査の基準に適合している場合に限り、本認証契約及び乙の発行した認証書は有効であり、甲は、認証書に記載されている認証の範囲において、本認証契約に基づき JIS マーク等及び付記事項の表示の使用について許諾される。
- 2 甲は、乙が初回製品試験において、該当する日本産業規格への適合性を確認するために供した試験用 鋳工業品等と同一条件において、認証を受けている鋳工業品等を製造することを確保しなければならない。
- 3 甲は、乙から認証を受けていることを広告、その他の方法で第三者に表示し、又は説明する場合には、認証を受けた鋳工業品又はその加工技術と認証を受けていないものが混同されないようにしなければならない。

- 4 甲は、認証に係る甲の業務が適切に行われているかどうかを確認するために、乙が甲に対して行う報告の請求、又は甲の工場、若しくは事業場その他必要な場所に乙が立ち入り、認証に係る鋳工業品等、その原材料又はその品質管理体制を審査することを妨げてはならない。なお、乙が立ち入り審査を実施した場合に係る乙の費用は、甲が負担するものとする。また、当該費用の額は、乙が別に定める手数料表による。

(JIS マーク等及び付記事項の表示の使用許諾の条件及び範囲)

第3条

- 1 甲は、第2条に適合している限り、第4条の規定による本認証契約の有効期間中、乙が認証を行っている鋳工業品等の本体、容器、包装又は送り状等へのJISマーク等及び付記事項の表示の使用について許諾される。
- 2 甲は、JISマーク等及び付記事項の表示の使用について責任を有し、表示事項及び付記事項並びにそれらの表示方法は、別紙に定める“JISマーク等及び付記事項の表示に係る管理要綱”に基づかなければならない。
- 3 甲は、乙が認証を行っている鋳工業品等にJISマーク等の表示を使用する場合、当該鋳工業品等が該当する日本産業規格に適合することを、甲が実施する試験又はその他適切な方法によって確認しなければならない。
- 4 甲は、乙が認証を行っている鋳工業品等にJISマーク等の表示を使用したときは、その数量及び時期を記録しなければならない。
- 5 甲は、前項において記録したJISマーク等の表示使用の実績を1年ごとに乙に報告しなければならない。(数量及び時期のみの報告でも良いが、組み合わせ等の記録は、乙の維持審査等で確認を行うこともある)

(認証契約の有効期間)

第4条

本認証契約の有効期間は、本認証契約の締結日から、第17条又は第19条の認証の取消し若しくは第26条により本認証契約が解除されない限り、2021年〇月〇〇日までとする。

ただし、契約期間満了の1ヶ月前までに甲又は乙のいずれからも契約解除の意思表示がないときは、本契約はさらに3年間更新されるものとし、以後この例による。

また、乙は認証の更新を決定した場合には、その旨を甲に通知すると共に、発行済の認証書を改訂し、又はこれに代えて新たな認証書を交付する。

なお、有効期間内に規格が廃止された場合、本契約はその期日をもって終了する。この場合、乙は甲に対してJISマーク等の表示の使用停止及び認証書の返却を要求し、甲は速やかに認証書を返却する。

(試験用鋳工業品等の提供)

第5条

甲は、乙が認証を行うため、又は認証の維持に必要である場合、乙から試験用の鋳工業品等の提供を求められたときは、無償で提供する。また、乙は、試験等によって生じた試験用の鋳工業品等の解体及び損傷について、甲に対し、一切その責任を負わない。

(認証維持審査)

第6条

- 1 乙は、甲の認証書に記載された鋳工業品等又はその加工技術、及び工場又は事業場に対して、本認証契約に基づいて認証維持審査を行う。

なお、定期的な認証維持審査は、本条第3項に規定される臨時の認証維持審査の実施の有無にかかわらず、認証契約の締結日から起算して3年ごとに1回以上行うものとする。この場合、初回の定期

的な認証維持審査は、認証契約締結日から起算して3年以内に行い、2回目以降は、前回の定期的な認証維持審査の申請日から起算して3年以内に行う。

- 2 乙は、原則として、甲に予告なしに認証維持審査を行うこととする。ただし、乙は、認証維持審査の目的を損なうことがないと認めるときは、甲に実施日程の予告を行うことができる。
- 3 乙は、次のいずれかに該当する場合、甲に対し臨時の認証維持審査を行うことができる。
 - (1) 甲が、認証を行っている鉱工業品等の仕様を変更し、若しくは追加し、又は品質管理体制を変更しようとしたとき（ただし、乙が、当該変更により、当該鉱工業品等が該当する日本産業規格に適合しなくなるおそれがないと判断したときを除く）。
 - (2) 該当する日本産業規格の改正により、乙が、認証を行っている甲の鉱工業品等が当該日本産業規格に適合しなくなるおそれがあると判断したとき、又は甲の品質管理体制を変更する必要があると判断したとき。
 - (3) 認証を行っている甲の鉱工業品等が該当する日本産業規格に適合しない旨、又は甲の品質管理体制がJIS Q 1001の附属書Bに定める品質管理体制の審査の基準に適合しない旨の第三者からの申立てを乙が受けたときで、乙がそのがい（蓋）然性が高いと判断したとき。
 - (4) (1)～(3)のほか、認証を行っている甲の鉱工業品等が日本産業規格に適合せず、若しくは甲の品質管理体制がJIS Q 1001の附属書Bに定める品質管理体制の審査の基準に適合せず、又は適合しないおそれのある事実を乙が把握したとき。
- 4 甲は、乙が認証維持審査の目的を達成するため、原則として工場又は事業場の就業時間内に、乙が必要とする当該工場又は事業場その他の必要な場所に立ち入ること、及び認証を行っている鉱工業品等に関する社内規格、管理記録、通常の製造工程中で実施した認証を行っている鉱工業品等の適合性評価に係る測定、試験、検査の記録などを閲覧することを拒否してはならない。
- 5 乙は、認証維持審査の実施に際して、甲の工場又は事業場の従業員に適用される安全規則を遵守する。
- 6 乙は、甲に対し、認証維持審査を行った場合、認証を継続するかどうかを決定し、その結果を甲に通知する。
- 7 甲は、認証維持審査に係る費用を負担する。

（認証の区分の追加又は変更の措置）

第7条

甲は、乙が認証を行っている鉱工業品等又はその加工技術、及び工場又は事業場に関し、認証の区分の追加又は変更を行う場合は、次のとおりの手続きを行う。

- (1) 甲は、乙が認証を行っている鉱工業品等の認証の区分を追加する場合、乙に対し、事前に、認証の区分の追加を申請するものとする。甲から当該追加の申請があった場合、乙は、遅滞なく、当該追加部分に係る初回製品試験及び初回工場審査を行い、認証の決定を行った場合にはその旨を甲に通知する。乙は、認証を行うことを決定した場合には、本認証契約の締結又は変更を行い、認証書を交付し、又は契約変更前の認証書を訂正し、若しくはこれに代えて新たな認証書を交付する。
- (2) 甲は、乙が認証を行っている認証の区分の中で工場又は事業場を変更し、又は追加する場合、乙に対し、事前に、当該工場若しくは事業場の変更、又は新たな工場若しくは事業場の追加を申請する。甲から当該変更又は追加の申請があった場合には、乙は、遅滞なく、当該変更又は追加部分に係る初回製品試験、及び初回工場審査を行い、認証の決定を行った場合には、その旨を甲に通知するものとする。乙は、認証を行うことを決定した場合、本認証契約の変更を行い、契約変更前の認証書を訂正し、又はこれに代えて新たな認証書を交付する。
- (3) 甲は、乙が認証を行っている認証の区分の中で、日本産業規格に定められている種類又は等級を変更又は追加する場合、乙に対し、事前に、当該種類又は等級の変更又は追加を申請する。甲から当該変更又は追加の申請があった場合には、乙は、遅滞なく、当該変更又は追加部分に係る初回製品試験及び初回工場審査を行い、認証の決定を行った場合には、その旨を甲に通知する。乙は、認証を

行うことを決定した場合、本認証契約の変更を行い、認証書を交付し、又は契約変更前の認証書を訂正し、若しくはこれに代えて新たな認証書を交付する。ただし、乙は、適切と判断した場合は、初回製品試験及び初回工場審査の一部を省略することができる。

- (4) 甲は、乙が認証を行っている認証の区分の中で鉱工業品等を変更又は追加する場合、乙に対し、事前に、鉱工業品等の変更又は追加を申請する。甲から当該変更又は追加の申請があった場合、乙は、遅滞なく、当該変更又は追加部分に係る初回製品試験及び初回工場審査を行い、認証の決定を行った場合には、その旨を甲に通知する。乙は、認証を行うことを決定した場合、本認証契約の変更を行い、認証書を交付し、又は契約変更前の認証書を訂正し、若しくはこれに代えて新たな認証書を交付する。ただし、乙は、適切と判断した場合は、初回製品試験及び初回工場審査の一部を省略することができる。

(日本産業規格、国が定める認証の基準又は乙の定める認証の業務に関する規定の変更の場合の措置)

第8条

- 1 乙は、甲の認証に係る日本産業規格が改正されたときは、速やかに、甲に対して、その旨を通知する。乙は、当該日本産業規格の改正により、認証を行っている甲の鉱工業品等が日本産業規格に適合しなくなるおそれがある又は、甲の品質管理体制を変更する必要があると判断したときは、その旨を甲に通知するとともに、甲に対し臨時の認証維持審査を行う。
- 2 乙は、国の定める認証の基準が変更されたとき又は、乙の定める認証の業務に関する規定が変更したときは、速やかに、甲に対して、その旨を通知するとともに、当該変更により、認証を行っている甲の鉱工業品等又はその加工技術が日本産業規格に適合しなくなるおそれがある又は、甲の品質管理体制を変更する必要があると判断したときは、その旨を甲に通知するとともに、甲に対し臨時の認証維持審査を行う。

(認証の公表等)

第9条

- 1 乙は、甲の鉱工業品又は加工技術に係る認証を行った場合、遅滞なく、次の事項について乙の事務所で業務時間内に公衆の閲覧に供するとともに、乙のホームページ、乙の発行する定期刊行物等により公表する。

なお、公表の期間は、本認証契約が終了するまで（現に製造又は加工された鉱工業品等のロットの認証の場合は、本認証契約が締結された期日から1年間）とする。

- (1) 認証契約を締結した期日及び認証番号
- (2) 甲の氏名又は名称及び住所
- (3) 認証に係る日本産業規格の番号及び日本産業規格の種類又は等級（当該日本産業規格に種類又は等級が定められている場合）
- (4) 認証を行っている鉱工業品又はその加工技術の名称
- (5) 認証の区分（日本産業規格又は日本産業規格の種類若しくは等級と同じである場合にあっては省略することができる）
- (6) 認証に係る工場又は事業場の名称及び所在地（現に製造又は加工された鉱工業品のロットの認証の場合及び全数において初回製品試験を行う場合を除く）
- (7) 認証を行っている鉱工業品又は加工技術に関し表示する事項及びそれに付記する事項、並びにそれらの表示の方法
- (8) 現に製造又は加工された鉱工業品等の個数又は量並びに当該鉱工業品等又はその包装、容器若しくは送り状に付されているロットの識別番号若しくは記号及びその表示方法（現に製造又は加工されたロットの認証に適用する）
- (9) 認証に係る法の根拠条項（産業標準化法第30条第1項若しくは第2項、第31条第1項又は第37条第1項、第2項若しくは第3項に基づく認証）

2 乙は、甲の鋳工業品又はその加工技術に係る認証の全部又は一部を取り消した場合、直ちに、次の事項について乙のホームページ、乙の発行する定期刊行物等により公表する。

なお、公表の期間は、当該認証を取り消した期日から1年間とする。

- (1) 取り消した期日及び認証番号
- (2) 取り消した認証に係る甲の氏名又は名称及び住所
- (3) 取り消した認証に係る日本産業規格の番号、及び日本産業規格の種類又は等級(当該日本産業規格に種類又は等級が定められている場合)
- (4) 取り消した認証に係る鋳工業品又はその加工技術の名称
- (5) 取り消した認証の区分(日本産業規格又は日本産業規格の種類若しくは等級と同じ場合は省略することができる)
- (6) 取り消した認証に係る工場又は事業場の名称及び所在地(現に製造又は加工されたロットの認証の場合及び全数において初回製品試験を行う場合を除く)
- (7) 取り消した認証に係る鋳工業品又はその加工技術に関し表示する事項及びそれに付記する事項並びにそれらの表示の方法
- (8) 取り消した認証に係る現に製造又は加工された鋳工業品等の個数又は量、並びに当該鋳工業品等又はその包装、容器若しくは送り状に付されているロットの識別番号又は記号及びその表示方法(現に製造又は加工されたロットの認証に適用する)
- (9) 取り消した認証に係る法の根拠条項(産業標準化法第30条第1項若しくは第2項、第31条第1項又は第37条第1項、第2項若しくは第3項に基づく認証)
- (10) 取り消した理由

3 乙は、甲の鋳工業品又はその加工技術に係る認証のJISマーク等の使用の停止請求を行った場合、直ちに、次の事項について乙のホームページ、乙の発行する定期刊行物等により公表する。

なお、公表の期間は、当該認証の使用の停止請求を取り消す旨を通知するまでの期間とする。

- (1) 停止請求を行った期日及び認証番号
- (2) 停止請求を行った認証に係る甲の氏名又は名称及び住所
- (3) 停止請求を行った認証に係る日本産業規格の番号、及び日本産業規格の種類又は等級(当該日本産業規格に種類又は等級が定められている場合)
- (4) 停止請求を行った認証に係る鋳工業品又はその加工技術の名称
- (5) 停止請求を行った認証の区分(日本産業規格又は日本産業規格の種類若しくは等級と同じ場合は省略することができる)
- (6) 停止請求を行った認証に係る工場又は事業場の名称及び所在地(現に製造又は加工されたロットの認証の場合及び全数において初回製品試験を行う場合を除く)
- (7) 停止請求を行った認証に係る鋳工業品又はその加工技術に関し表示する事項及びそれに付記する事項並びにそれらの表示の方法
- (8) 停止請求を行った認証に係る現に製造又は加工された鋳工業品等の個数又は量、並びに当該鋳工業品等又はその包装、容器若しくは送り状に付されているロットの識別番号又は記号及びその表示方法(現に製造又は加工されたロットの認証に適用する)
- (9) 停止請求を行った認証に係る法の根拠条項(産業標準化法第30条第1項若しくは第2項、第31条第1項又は第37条第1項、第2項若しくは第3項に基づく認証)
- (10) 停止請求を行った理由

4 乙は、甲の鋳工業品又はその加工技術に係る認証に係る認証契約が終了した場合、遅滞なく、次の事項について乙のホームページ、乙の発行する定期刊行物等により公表する。

なお、公表の期間は、本認証契約が終了した期日から1年間とする。

- (1) 認証契約が終了した期日及び認証番号

- (2) 終了した認証契約に係る甲の氏名又は名称及び住所
- (3) 終了した認証契約に係る日本産業規格の番号及び日本産業規格の種類又は等級（当該日本産業規格に種類又は等級が定められている場合）
- (4) 終了した認証契約に係る鉱工業品又はその加工技術の名称
- (5) 終了した認証契約に係る認証の区分（日本産業規格又は日本産業規格の種類若しくは等級と同じ場合は省略することができる）
- (6) 終了した認証契約に係る工場又は事業場の名称及び所在地
- (7) 終了した認証契約に係る鉱工業品又はその加工技術に関し表示する事項及びそれに付記する事項並びにそれらの表示の方法
- (8) 終了した認証に係る法の根拠条項（産業標準化法第30条第1項若しくは第2項、第31条第1項又は第37条第1項、第2項若しくは第3項に基づく認証）

（試験等の際しての損害）

第10条

乙は、認証維持審査及び第7条に基づく審査に際し、甲に生じた損害については、乙に故意又は過失があったときを除き、その責任を負わない。

（第三者への認証の業務の委託）

第11条

乙は、甲の同意を得て、甲の認証に係る業務の一部を第三者に委託することができる。

（承継）

第12条

甲は、乙が行っている認証に係る事業の全部を甲が指定する第三者に譲渡し、又は甲について相続、合併若しくは分割（当該事業の全部を承継させる場合に限る）があるときは、甲は事前に書面による乙の同意を得て、当該認証の全部を承継させることができる。

なお、甲が当該認証に係る事業の承継を行った場合、甲は、速やかに、乙にその旨を届け出る。

（苦情等の処理）

第13条

- 1 甲は、乙が認証を行っている鉱工業品等につき、第三者から苦情の申立てを受けたとき、又は甲と第三者との間において紛争が生じたときは、甲はその責任と負担において解決を図る。
甲が第三者から苦情の申立てを受けた時点、又は甲と第三者の間に紛争が生じた時点で速やかに、ならびに甲が行うそれらの苦情処理、紛争処理の段階においては適時状況を乙に報告する。
- 2 前項の場合において、乙が第三者に対し損害賠償その他の負担をしたときは、甲は乙の求償に応ずる。
- 3 乙は、1項の第三者からの苦情又は紛争に係る問題点等に関連して、認証を行っている鉱工業品等に該当する日本産業規格への適合性、及び認証に係る甲の工場又は事業場の品質管理体制（JIS Q 1001の附属書Bに定める品質管理体制の審査の基準）への適合性の確認、当該問題点等に関する原因の究明、是正及び予防措置が適正に行われるよう、甲に協力する。

（機密の保持）

第14条

乙は、甲の認証に関連して知り得た、認証を行っている鉱工業品等及びその製造又は加工に関する一切の情報について、認証業務にだけ使用するものとし、他の目的に使用し又は甲の承諾若しくは関連する法令に基づく等の正当な理由なくして、第三者に当該情報を漏えいしてはならない。ただし、本認証契約の締

結時に公知であった情報、本認証契約の締結後に乙の故意又は過失によらず、公知になった情報及び乙が第三者から適法に取得した情報は除く。

(JIS マーク等の誤用の場合の措置)

第 15 条

乙は、甲が次のいずれかに該当する場合、甲に対し、当該事項の是正及び予防措置を講じるように請求する。

- (1) 乙が認証を行っている鋳工業品等以外の鋳工業品等又はその包装、容器若しくは送り状に、JIS マーク等の表示又はこれと紛らわしい表示を甲が付しているとき
- (2) 乙が認証を行っている鋳工業品等以外の鋳工業品等の広告に、当該鋳工業品等が認証を受けていると誤解されるおそれがある方法で、JIS マーク等の表示又はこれと紛らわしい表示を甲が使用しているとき
- (3) 甲に係る広告に、乙の認証に関し、第三者を誤解させるおそれのある内容があるとき

なお、乙は、当該請求について期限を定め、必要と認められるときは当該期限を延長することができる。

乙は、期限（延長した場合を含む）までに措置を完了した旨の報告が甲からなされなかった場合、本認証契約第 17 条の (3) に基づき必要な措置を講じなければならない。

(是正及び予防措置)

第 16 条

乙は、甲の工場又は事業場の品質管理体制について、JIS Q 1001 の附属書 B に定める品質管理体制の審査の基準、又は乙が定める認証の基準に不適合があった場合、甲に対し、当該不適合の是正及び予防措置を講じるように請求することができる。

なお、乙は、当該請求について期限を定め、通知する。また、乙は適当と判断した場合は、当該期限を延長することができる。

乙は、期限（延長した場合を含む）までに措置を完了した旨の報告が甲からなされなかった場合、本認証契約第 17 条 (3) に基づき、必要な措置を講じなければならない。

(認証を行っている鋳工業品等が日本産業規格に適合しない場合の措置)

第 17 条

乙は、次のいずれかに該当する場合、甲の認証を取り消すか、又は速やかに、甲に対して、JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）の使用の停止を請求するとともに、甲が保有する JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）を表示している鋳工業品等であって、該当する日本産業規格に適合していないものを出荷しないように、請求する。

- (1) 乙が認証を行っている甲の鋳工業品等が日本産業規格に適合しないとき
- (2) 甲の品質管理体制が、JIS Q 1001 の附属書 B に定める品質管理体制の審査の基準又は乙が定める認証の基準に適合しない場合であって、その内容が、乙が認証を行っている鋳工業品等が日本産業規格に適合しなくなるおそれのあるとき、又はその他重大なものであるとき
- (3) 第 15 条又は第 16 条に基づく乙の請求に対し、甲が適確に、又は速やかに応じなかったとき

(JIS マーク等の使用の停止に係る措置)

第 18 条

乙は、第 17 条に基づく請求をする場合には、甲に対し、次の (1) ～ (5) に掲げる事項を記載した文書により通知する。

- (1) 請求の対象となる、甲の工場又は事業場及び鋳工業品等の範囲
- (2) 請求する日からその請求を取り消す日までの間に、甲に対し、乙が認証を行っている鋳工業品等、

又はその包装、容器若しくは送り状に、JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）を付してはならない旨

- (3) 甲が保有する JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）の付してある鉱工業品等であつて、かつ、該当する日本産業規格に適合していないものを出荷してはならない旨
- (4) 請求の有効期間
- (5) 請求の有効期間内に、乙が認証を行っている鉱工業品等が、該当する日本産業規格に適合しなくなった原因を是正し、又は甲の品質管理体制を JIS Q 1001 の附属書 B に定める品質管理体制の審査の基準、又は乙が定める認証の基準に適合するように是正し、及び必要な予防措置を講ずる旨

乙は、適切と判断した場合には、上記（4）に規定する請求の有効期間を延長することができる。

乙は、上記（5）の措置が講じられたことを確認した場合には、甲に対し、速やかに文書により、第 17 条に基づく請求を取り消すことを通知する。

乙は、上記（4）の有効期間（延長した場合を含む）内に、上記（5）の措置が講じられなかった場合は、甲の認証を取り消す。

（認証の取消し又は失効）

第 19 条

乙は、次のいずれかに該当する場合、甲の認証をすべて取り消す。

- (1) 甲が、乙による認証維持審査を拒み、妨げ、又は忌避したとき
 - (2) 乙が第 17 条に基づく請求をした場合であつて、その請求の有効期間内に、乙が認証を行っている鉱工業品等、又はその包装、容器若しくは送り状に、甲が JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）をしたとき
 - (3) 乙が第 17 条に基づく請求をした場合であつて、その請求の有効期間内に、甲が保有する JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）を付してある鉱工業品等であつて、該当する日本産業規格に適合していないものを甲が出荷したとき
- 2 乙は、前項の認証の取消し及び第 17 条に基づく認証の取消しのほか、次のいずれかに該当する場合、認証を取り消すことができる。
- (1) 甲が、乙に対する債務決済（認証のために必要とされる費用等）を支払い期日までに履行できないとき
 - (2) 甲が本認証契約に違反したとき
- 3 乙は、甲が次のいずれかに該当する場合、甲の認証を失効とし、本認証契約を解除し、第 20 条及び第 21 条に基づき、認証の取消しに係る措置を行う。
- (1) 甲が認証機関の切り替えや認証維持審査を受審しない旨を乙に申し出た場合等であつて、乙が書面による認証維持審査に関する意向確認を行い、当該書面に定められた期日までに甲から認証維持審査の申請又は認証維持に関する意向確認に対する回答がない場合
 - (2) 甲が事業廃止又は第 26 条第 2 項(3)に該当することにより、甲の品質管理体制等の実質的な破綻が認められる又は疑われる場合であつて、乙が書面による認証の維持に関する意向調査を行い、当該書面に定められた期日までに甲から回答がない場合
 - (3) 甲の自己都合（登録認証機関の切り替え、認証の返上、倒産など）により、認証契約が終了した場合
- 乙は、甲の認証を失効とする場合には、甲に対し、事前に契約満了日をもって JIS マーク等が表示されないよう文書にて通知し、甲からの書面による報告を求める。

（認証の取消しに係る措置）

第 20 条

乙は、甲の認証を取消す場合には、甲に対し、当該認証を取り消す期日及び乙に対し異議申立てができない旨を記載した文書により、通知する。

乙は、甲から当該認証の取消しについて、異議申立てを受けたときは、これを審議し、認証の取消しの可否について決定する。

乙は、認証を行った鉱工業品等の認証を取消した場合、甲に対して認証書の返却を要求し、甲は速やかに認証書を返却する。

第 21 条

乙は、甲の認証を取消す場合には、甲に対して、当該取消した認証に係る鉱工業品等、又はその容器、包装若しくは送り状に付された JIS マーク等の表示（これと紛らわしい表示を含む）を除去し、又は抹消するように請求する。

（乙に対する甲のその他の通知義務）

第 22 条

甲は、本認証契約の該当する条項で定めている場合のほか、次に該当する場合、それぞれ定める時期に、乙に報告しなければならない。

- (1) 甲の氏名又は名称が変更された場合 速やかに
- (2) 甲の認証に係る工場又は事業場の名称が変更された場合 速やかに
- (3) 甲の認証に係る品質管理体制（品質管理実施状況説明書の主要な記載内容）を変更しようとした場合 速やかに
- (4) 甲の認証に係る鉱工業品等の仕様を変更し若しくは追加しようとした場合 速やかに
- (5) 甲の認証に係る工場又は事業場の全部又は一部について事業を休止又は廃止した場合 速やかに

（甲に対する乙のその他の通知義務）

第 23 条

乙は、本認証契約の該当する条項で定めている場合のほか、次に該当する場合、それぞれに定める時期に、甲に通知しなければならない。

- (1) 乙が事業の全部を第三者に承継させる場合 承継させる日まで
- (2) 乙の事務所の所在地を変更しようとするとき 変更する日まで
- (3) 乙が認証の業務の全部又は一部を休止し、又は廃止しようとするとき 休止又は廃止しようとする日の 6 か月前まで
- (4) 乙が産業標準化法第 52 条第 1 項の登録の取消し又は認証の業務の全部若しくは一部の停止を命じられたとき 直ちに
- (5) 乙が産業標準化法第 52 条第 2 項（聴聞）の通知を受けたとき 直ちに
- (6) 乙の行っている認証に係る日本産業規格が改正されたとき 直ちに
- (7) 乙の行っている認証に係る日本産業規格への適合性の認証に関する省令第 2 条に規定される品質管理体制の審査の基準、及び JIS Q 1001 の附属書 B に定める品質管理体制の審査の基準が改正されたとき 直ちに
- (8) 乙が定める認証の基準を改正したとき 直ちに

（甲の乙に対する異議申立て）

第 24 条

乙が甲に対し講じた措置について、甲は異議申立てを行うことができる。

乙は、甲から異議申し立てがあった場合、適切に措置しなければならない。

（認証に係る費用）

第 25 条

1 甲が乙に支払う認証及び認証の維持のための手数料及び費用については、乙が別に定める手数料及び費

用算定表による。

- 2 認証書の発行については、乙が別に定める手数料による。
- 3 手数料及び費用の収納については、乙が別に定める規定による。

(認証契約の解除)

第 26 条

- 1 甲は、乙に書面で通知することにより、本認証契約を解除することができる。この場合、本認証契約は、他の制約がない場合、甲から書面による通知が乙に達した日の 30 日後に終了する。
- 2 乙は、甲に次のいずれかに該当する事由が生じたときは、本認証契約を解除することができる。
 - (1) 本認証契約第 17 条又は第 19 条に基づき乙が甲の認証を取り消したとき
 - (2) 甲に乙との間の信頼関係を破壊する行為があったとき
 - (3) 甲が支払の停止又は破産宣言、特別清算、民事再生、会社整理若しくは会社更生の申立てを受けたとき、又は自ら申立てたとき

(不可抗力による認証契約の終了)

第 27 条

天災地変その他不可抗力により乙の認証業務の遂行が不可能となったときは、この契約は当然に終了する。

(本認証契約に定めていない事項)

第 28 条

本認証契約に定めのない事項、及び本認証契約の解釈適用に疑義を生じた事項については、甲及び乙は、日本の法令及び慣習に則り、誠意をもって協議のうえ、その解決を図る。

(その他)

第 29 条

乙の業務規程に規定されているすべての条項は、本認証契約の実施に適用される。

本認証契約締結の証として本書 2 通を作成し、甲、乙記名なつ（捺）印のうえ、各 1 通を保有する。

認証契約締結日：2019 年 ○月○○日

甲：住所 大阪府○○市○○町○丁目
○番○○号

会社名 ○○塗料株式会社

代表者名 代表取締役社長

○○ ○○ 印

乙：住所 東京都渋谷区恵比寿三丁目 12 番 8 号
東京塗料会館 205

登録認証機関名 一般財団法人 日本塗料検査協会

代表者名 理事長

宮川 豊章 印